



# ネイチャーポジティブの実現に 向けた国際動向

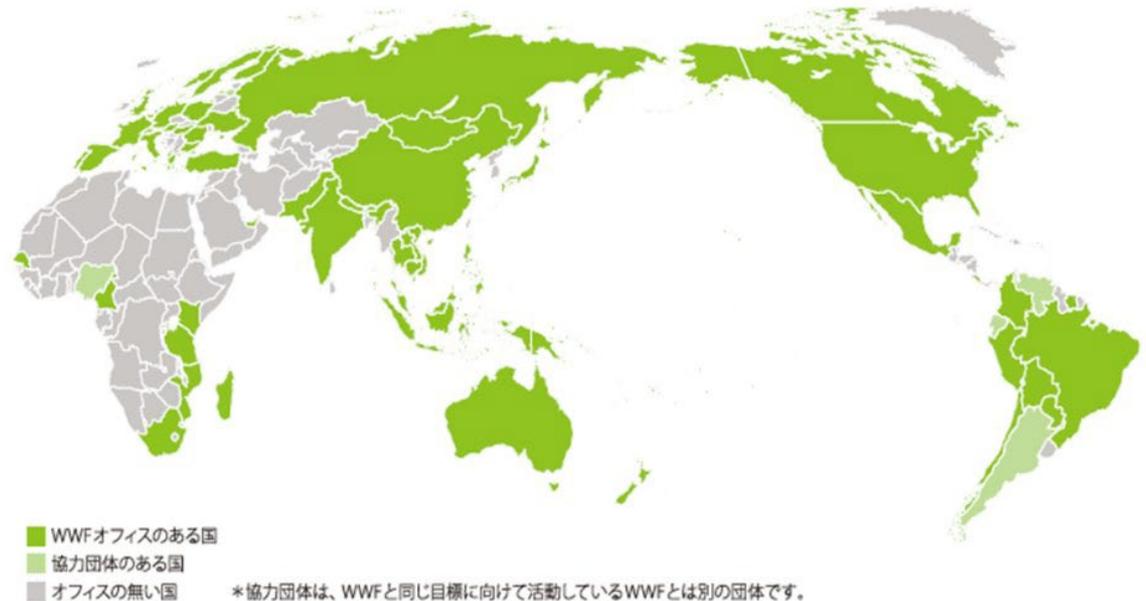
2024年8月30日

WWFジャパン 籠島彰宏

# WWF（世界自然保護基金）とは

世界100か国以上で活動する  
国際的な環境保全団体

ネットワーク活動拠点



## WWFの理念・沿革

“Living in harmony with nature”  
「人と自然が調和して生きられる未来」

WWFインターナショナル 1961年設立（スイス）  
WWFジャパン 1971年設立  
個人サポーター数：約7.16万人 法人会員数：約140社

# 目次

---

1. 生物多様性をめぐる国際動向
2. 生物多様性条約での取組

# 地球1.75個分の暮らし

## 🌍 バイオキャパシティ (生物生産力)

[=面積×生物生産効率]

## 👣 エコロジカル・フットプリント

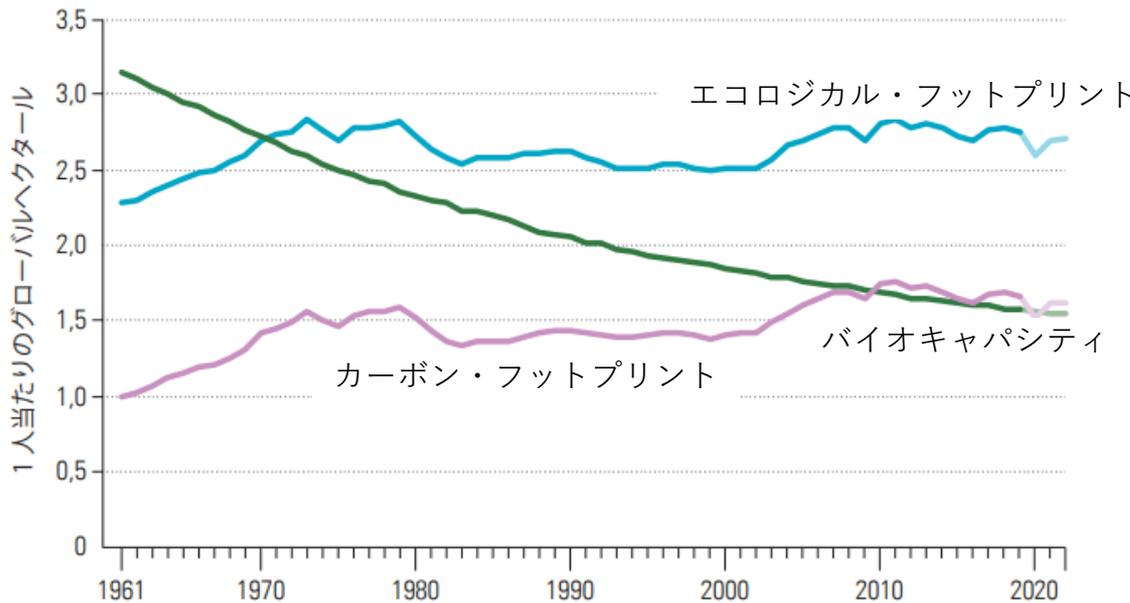
[=人口×1人あたりの消費×生産・廃棄効率]

### 自然資源供給量

どのくらい自然資源を供給できるか

### 自然資源需要量

どのくらい自然資源を必要としているか



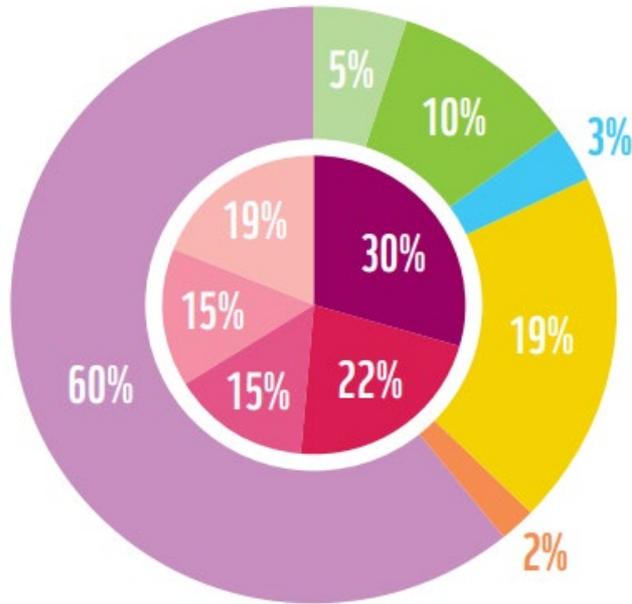
地球の自然資源供給量の  
1.75倍を必要している

||

**地球1.75個分の暮らし**

出典：WWFジャパン「生きている地球レポート」(2022)

# 世界のエコロジカル・フットプリント



土地利用別の  
エコロジカル・フットプリント

凡例

- 牧草地フットプリント
- 森林製品フットプリント
- 漁場フットプリント
- 耕作地フットプリント
- 生産能力阻害地フットプリント
- カーボン・フットプリント

活動別の  
エコロジカル・フットプリント

凡例

- 食料
- 住居
- 輸送交通
- 物品
- サービス

## エコフットの内訳

### 牧草地

畜産品、革製品、毛織物などの生産に対して必要な牧草地に対する需要

### 森林製品

木質・木材製品の生産に必要な森林に対する需要

### 漁場

天然及び養殖の魚介類の生産に必要な海洋・淡水生態系に対する需要

### 耕作地

食料、繊維、飼料、油脂、ゴムの生産に必要な土地に対する需要

### 生産能力阻害地

インフラ設備に覆われた、生物学的には生産可能であった土地に対する需要

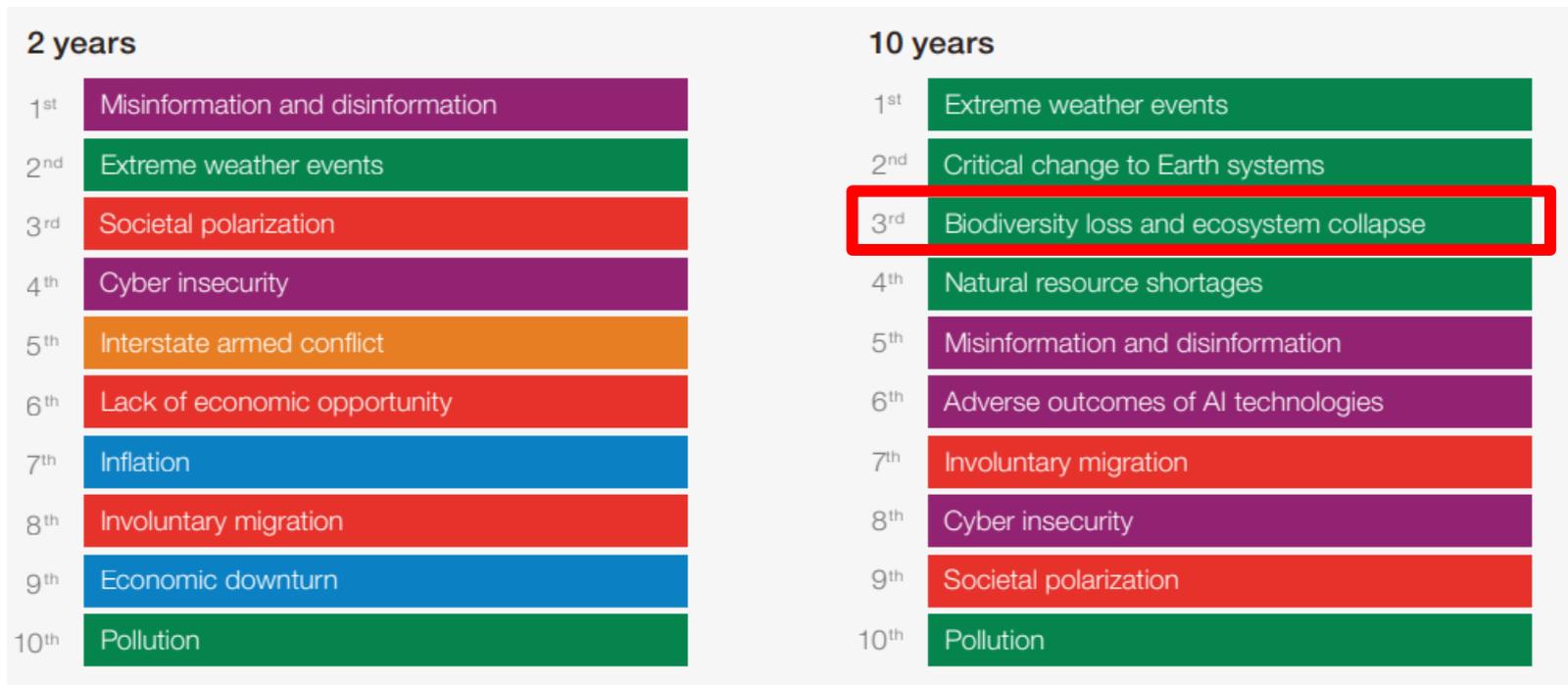
### カーボンフットプリント

化石燃料の燃焼やセメント生産において排出された炭素量

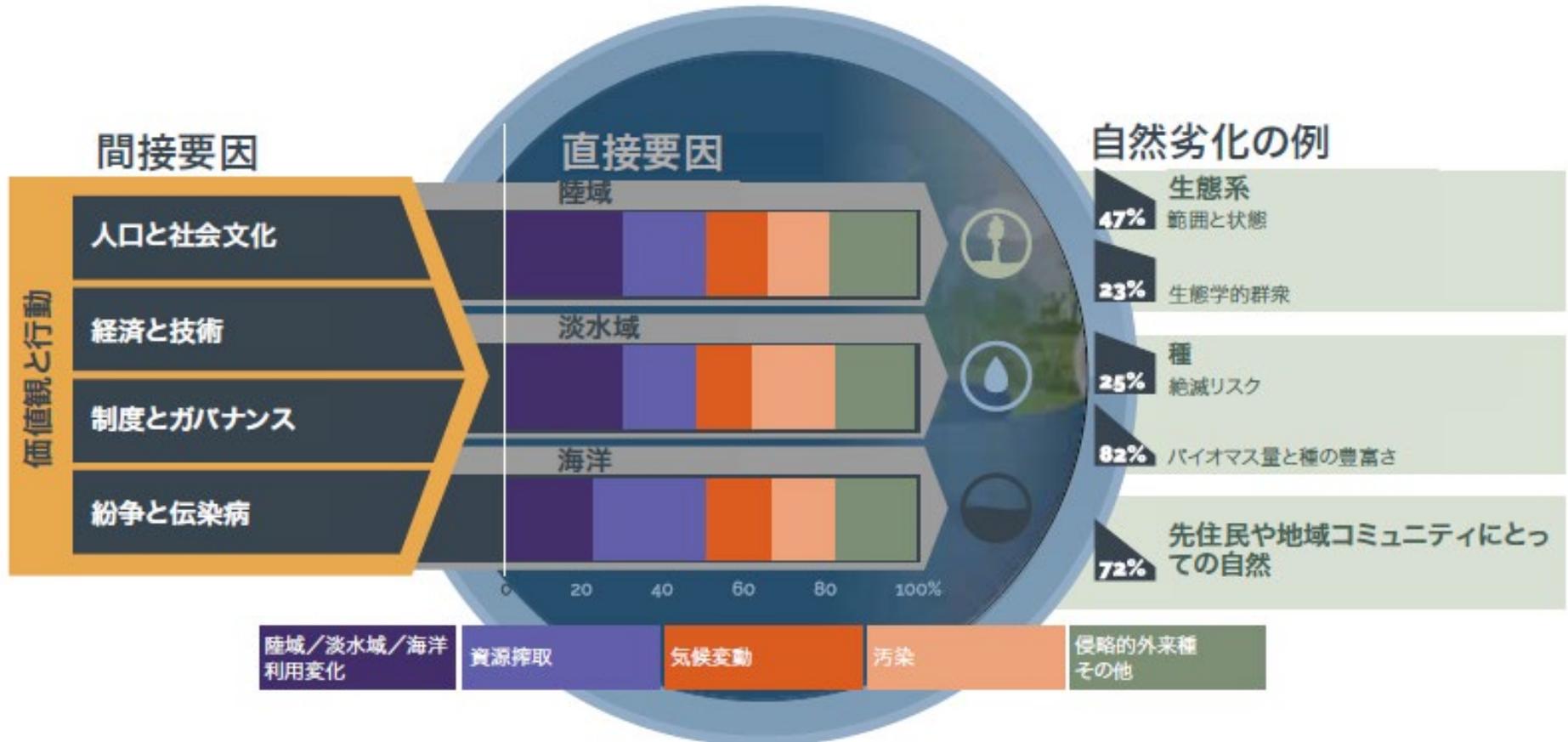
# 世界経済フォーラム「グローバルリスク報告書」

**世界のGDPの半分以上（44兆ドル）は自然の損失によって潜在的に脅かされており、ネイチャーポジティブ経済に移行することで、2030年までに3億9500万人の雇用創出と年間10.1兆ドル規模のビジネスチャンスが見込める。**  
(2020年グローバルリスク報告書)

短期的及び長期的なグローバルリスク



# IPBES 「地球規模評価報告書」



出典：SBTNエグゼクティブサマリー（2020）

# WWF 「生きている地球レポート」

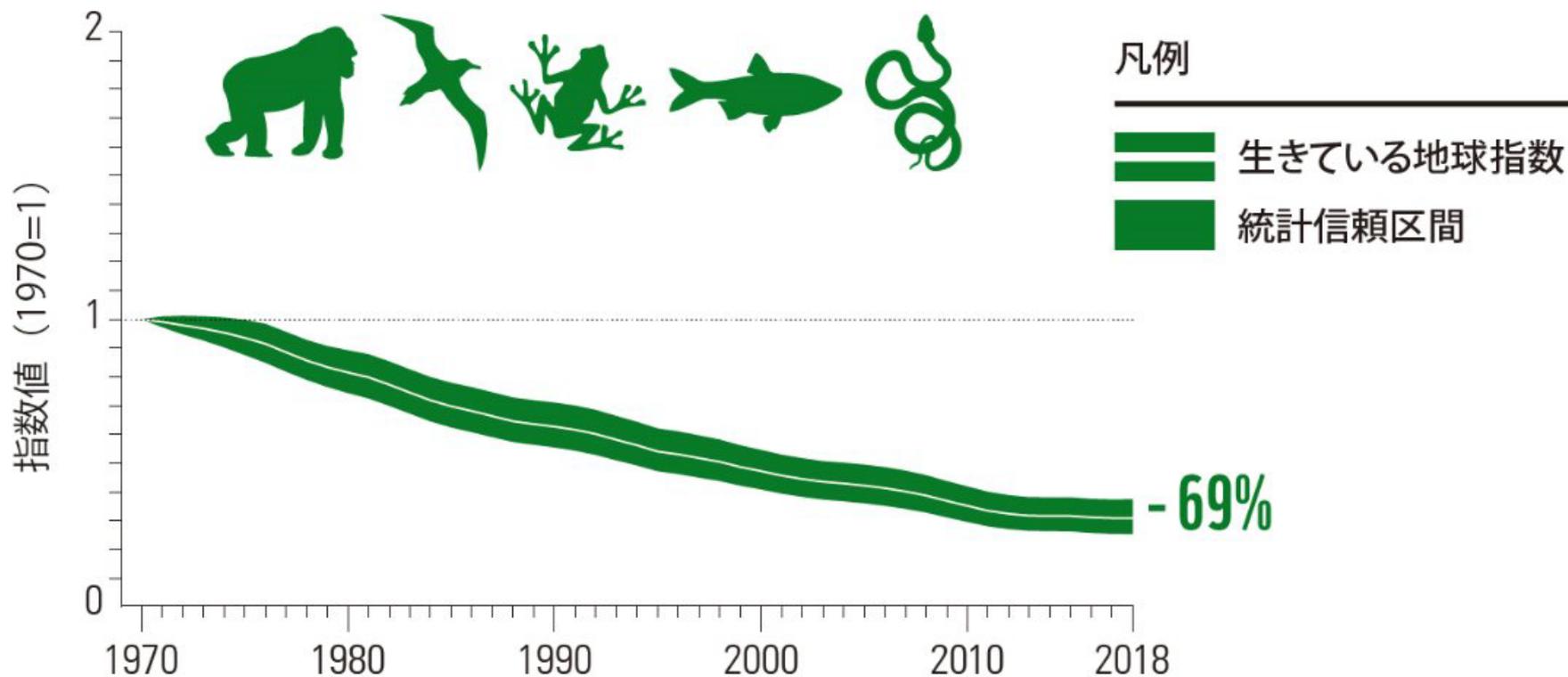
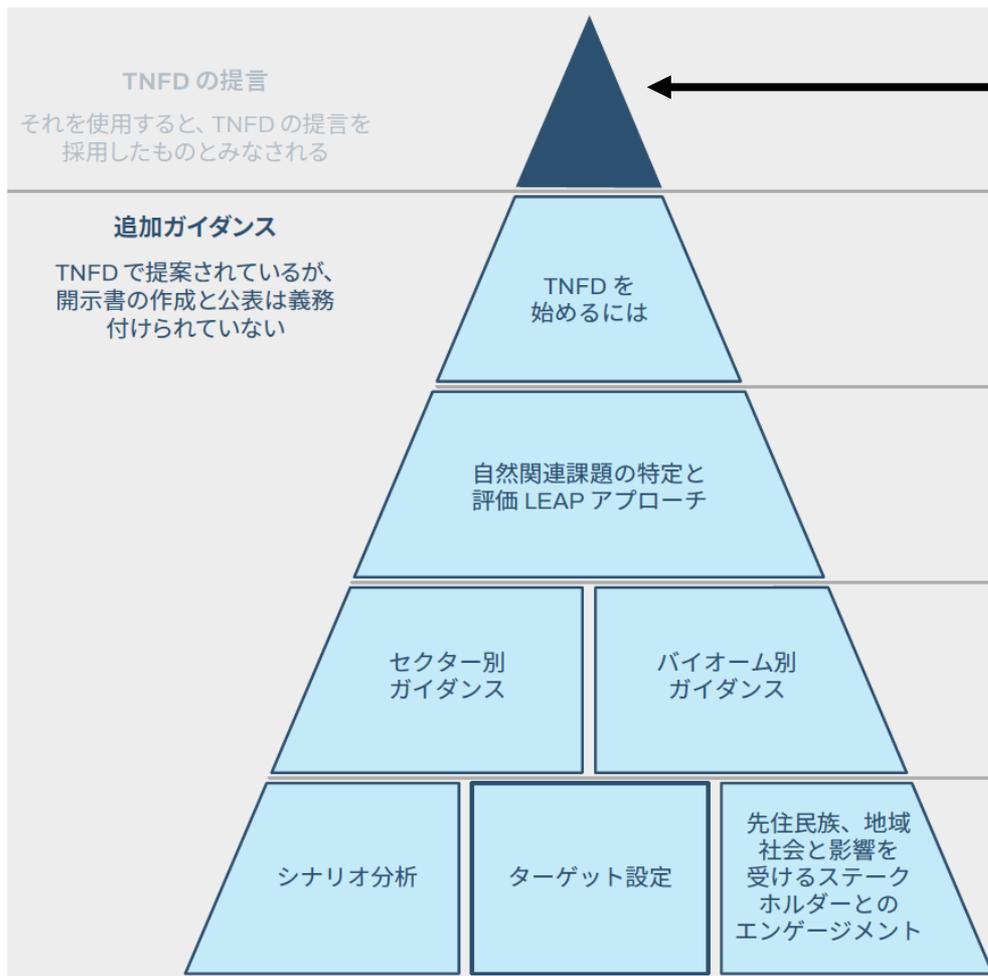


図2 生きている地球指数 (1970年～2018年) 出典：WWF/ZSL,2022<sup>3</sup>

- **生きている地球指数 (LPI)** は、種・個体群のサイズの変化率 (減少割合) を見た指標。人に例えれば、世界の各国それぞれの人口の増減率を指数化し、平均したもの。
- 陸、淡水、海など自然の中で生きる脊椎動物の5,230種、約32,000個体群のデータを基に、ZSL (ロンドン動物園協会) と共に調査。

# 自然関連財務情報開示 TNFD



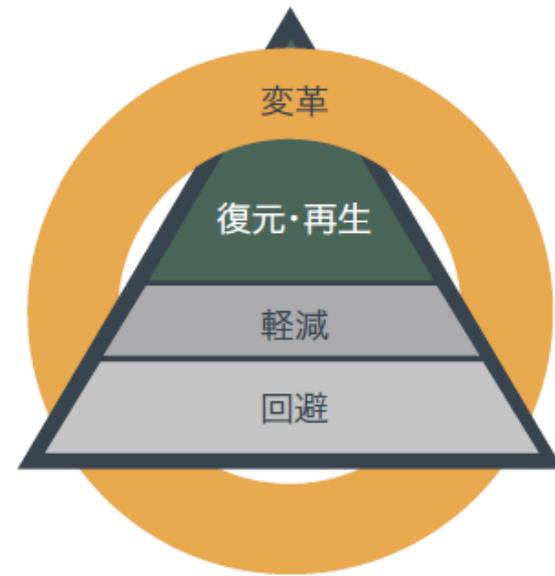
<p><b>ガバナンス</b></p> <p>自然関連の依存、インパクト、リスクと機会の組織によるガバナンスの開示。</p>	<p><b>戦略</b></p> <p>自然関連の依存、インパクト、リスクと機会が、組織のビジネスモデル、戦略、財務計画に与えるインパクトについて、そのような情報が重要である場合は開示する。</p>
<p><b>リスクとインパクトの管理</b></p> <p>組織が自然関連の依存、インパクト、リスクと機会を特定し、評価し、優先順位付けし、監視するために使用しているプロセスを説明する。</p>	<p><b>測定指標とターゲット</b></p> <p>マテリアルな自然関連の依存、インパクト、リスクと機会を評価し、管理するために使用している測定指標とターゲットを開示する。</p>

出典：TNFD「自然関連財務情報開示タスクフォースの提言」（2023）

# SBTN (Science Based Targets for Nature)

- SBTNは、バリューチェーン上で、企業等がプラネタリーバウンダリーの範囲内で持続可能な活動ができるようにする、**科学に基づく測定可能で行動可能な目標**。
- 2023年に1stリリース、**2025年に完成予定**。
- **SBTNコーポレートエンゲージメントプログラム**により、**現在214社が開発に参加中**。（日本からはキリン、リクシル、NEC、セブン&アイホールディングス、サントリー、トヨタ）

ミティゲーション・ヒエラルキー（優先順序）  
AR3T (Avoid, Reduce, Restore & Restoration,)



# 目次

---

1. 生物多様性をめぐる国際動向
2. 生物多様性条約での取組

## COPで何が起きているのか

2022年12月の第15回生物多様性条約締約国会議（CBD COP15）において、2030年目標となるKMGBFが合意

昆明・モントリオール生物多様性枠組 (KMGBF)	2050年のゴール（4個）及び2030年のターゲット（23個）
モニタリング・フレームワーク（MF）	GBFの進捗測定のため、各国が共通して使う <b>各種指標</b> を設定
計画・モニタリング・報告およびレビュー	COP17およびCOP19で <b>グローバル・レビュー</b> を行うこと等を決定
資源動員	GEF内に <b>GBFファンド</b> の設置を決定
能力構築・開発のための長期戦略的枠組	特に途上国における能力開発を進めるための枠組みを提示
DSI（デジタル配列情報）	多国間メカニズムの設立を決定
他の国際条約・国際機関との協力	他の多国間条約、UNEP、UNDP、FAO等の国際機関との協力
その他	予算、ジェンダー、資金等

## KMGBFとは

### 昆明・モンリオール生物多様性枠組の構造

**2050年ビジョン**  
**自然と共生する世界**

#### 2050年ゴール

**A**

- 生態系の健全性、連結性、レジリエンスの維持・強化・回復。自然生態系の面積増加
- 人による絶滅の阻止、絶滅率とリスクの削減。在来野生種の個体数の増加
- 遺伝的多様性の維持、適応能力の保護

**B** 生物多様性が持続可能に利用され、自然の寄与(NCP)が評価・維持・強化

**C** 遺伝資源、デジタル配列情報(DSI)、遺伝資源に関連する伝統的知識の利用による利益の公正かつ衡平な配分と2050年までの大幅な増加により、生物多様性保全と持続可能な利用に貢献

**D** 年間7,000億ドルの生物多様性の資金ギャップを徐々に縮小し、枠組実施のための十分な実施手段を確保

#### 2030年ミッション

自然を回復軌道に乗せるために生物多様性の損失を止め反転させるための緊急の行動をとる

#### 2030年ターゲット

##### (1) 生物多様性への脅威を減らす

- すべての地域を参加型・統合的で生物多様性に配慮した空間計画下及び/又は効果的な管理プロセス下に置く
- 劣化した生態系の30%の地域を効果的な回復下に置く
- 陸と海のそれぞれ少なくとも30%を保護地域及びOECMにより保全 (30 by 30目標)
- 絶滅リスクを大幅に減らすために緊急の管理行動を確保、人間と野生生物との軋轢を最小化
- 乱獲を防止するなど、野生種の利用等が持続的かつ安全、合法なものにする
- 侵略的外来種の導入率及び定着率を50%以上削減
- 環境中に流出する過剰な栄養素の半減、農業及び有害性の高い化学物質による全体的なリスクの半減、プラスチック汚染の防止・削減
- 自然を活用した解決策/生態系を活用したアプローチ等を通じた、気候変動による生物多様性への影響の最小化

##### (2) 人々のニーズを満たす

- 野生種の管理と利用を持続可能なものとし、人々に社会的、経済的、環境的な恩恵をもたらす
- 農業、養殖業、漁業、林業地域が持続的に管理され、生産システムの強靱性及び長期的な効率性と生産性、並びに食料安全保障に貢献
- 自然を活用した解決策/生態系を活用したアプローチを通じた、自然の寄与(NCP)の回復、維持、強化
- 都市部における緑地・親水空間の面積、質、アクセス、便益の増加、及び生物多様性を配慮した都市計画の確保
- 遺伝資源及びデジタル配列情報(DSI)に係る利益配分の措置をとり、アクセスと利益配分(ABS)に関する文書に従った利益配分の大幅な増加を促進

##### (3) ツールと解決策

- 生物多様性の多様な価値を、政策・方針、規制、計画、開発プロセス、貧困撲滅戦略、戦略的環境アセスメント、環境インパクトアセスメント及び必要に応じ国民勘定に統合することを確保
- 事業者(ビジネス)が、特に大企業や金融機関等は確実に、生物多様性に係るリスク、生物多様性への依存や影響を評価・開示し、持続可能な消費のために必要な情報を提供するための措置を講じる
- 適切な情報により持続可能な消費の選択を可能とし、食料廃棄の半減、過剰消費の大幅な削減、廃棄物発生的大幅削減等を通じて、グローバルフットプリントを削減
- バイオセーフティのための措置、バイオテクノロジーの取り扱いおよびその利益配分のための措置を確立
- 生物多様性に有害なインセンティブ(補助金等)の特定、及びその廃止又は改革を行い、少なくとも年間5,000億ドルを削減するとともに、生物多様性に有益なインセンティブを拡大
- あらゆる資金源から年間2,000億ドル動員、先進国から途上国への国際資金は2025年までに年間200億ドル、2030年までに年間300億ドルまで増加
- 能力構築及び開発並びに技術へのアクセス及び技術移転を強化
- 最良の利用可能なデータ、情報及び知識を、意思決定者、実務家及び一般の人々が利用できるようにする
- 女性及び女兒、子ども及び若者、障害者、先住民及び地域社会の生物多様性に関連する意思決定への参画を確保
- 女性及び女兒の土地及び自然資源に関する権利とあらゆるレベルで参画を認めることを含めたジェンダーに対応したアプローチを通じ、ジェンダー平等を確保

**Target 15**  
**ビジネス**

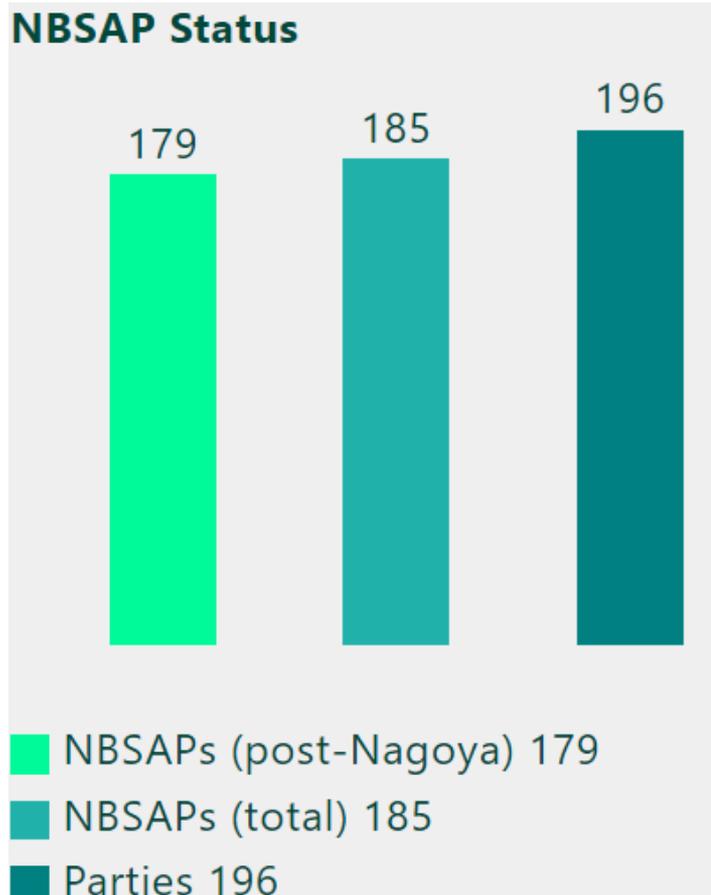
**Target 18**  
**インセンティブ**  
**(補助金など)**

**Target 19**  
**資金フロー**

実施支援メカニズム及び実現条件／責任と透明性(レビューメカニズム)／広報・教育・啓発・取り込み

## 生物多様性国家戦略（NBSAP）

各締約国がKMGBFを適切に実施するための第一歩として、NBSAPs（National Biodiversity Strategies and Action Plans）を策定・改定



**KMGBFを踏まえて改定したNBSAP**を生物多様性条約事務局へ提出した国は、2024年7月末時点で**14カ国**

（日本は2023年3月に閣議決定、同年6月に提出（スペインに次ぐ二番目））

# CBD COPで何が起きているのか

昆明・モンリオール生物多様性枠組 (KMGBF)	2050年のゴール (4個) 及び2030年のターゲット (23個)
<b>モニタリング・フレームワーク (MF)</b>	<b>GBFの進捗測定のため、各国が共通して使う各種指標を設定</b>
計画・モニタリング・報告およびレビュー	COP17およびCOP19でグローバル・レビューを行うこと等を決定
資源動員	GEF内にGBFファンドの設置を決定
能力構築・開発のための長期戦略的枠組	特に途上国における能力開発を進めるための枠組みを提示
DSI (デジタル配列情報)	多国間メカニズムの設立を決定
他の国際条約・国際機関との協力	他の多国間条約、UNEP、UNDP、FAO等の国際機関との協力
その他	予算、ジェンダー、資金等

**KMGBFの進捗を測る各種指標のセットは今年10月のCBD COP16において決定予定**

## Target 18 有害インセンティブの改革

### GBF Target 18

補助金を含む生物多様性に有害なインセンティブを 2025 年までに特定し、公正、公平、効果的及び衡平な方法により、廃止、段階的廃止又は改革を行う。

最も有害なインセンティブから開始し、2030年までに少なくとも年間5,000億ドルを大幅にかつ漸進的に削減し、生物多様性の保全と持続可能な利用のために有益なインセンティブを拡大する。

**論点:** インセンティブには受益者がいるため、急な単純打ち切りは困難。代替案が望まれるが、科学的な根拠(例: 生物資材の開発)が必要。

# Target 18 有害インセンティブの改革



OECD Environment Working Papers No. 206

Identifying and assessing subsidies and other incentives harmful to biodiversity: A comparative review of existing national-level assessments and insights for good practice

<https://>

**Table 2.1. Examples of biodiversity-related impacts of various potentially harmful support and subsidies**

Description of support or subsidy	Channels for environmental harm	Impacts on biodiversity
Agricultural support	Incentives for farmers to grow water-inefficient crops.	Salinisation, water-logging and/or decline in groundwater tables leading to changes in local ecosystems
Pesticide subsidies	Overuse of pesticides and inefficient application	Pesticides contaminate groundwater aquifers and impact ecosystems.
Fertilizer subsidies	Overuse of fertilizer and inefficient application leading to fertilizer leaching and loss to the atmosphere.	Direct impacts on ecosystems, impaired air quality, climate change and stratospheric ozone
Water subsidies	Overuse of water. Use of inappropriate technologies.	Depletion of water bodies leading to habitat destruction. Salinization and water-flow problems
Fisheries support	Overcapacity, increased fishing effort, illegal, unreported and unregulated fishing	Overfishing and depletion of stocks, marine habitat destruction
Energy and mining	Increase in greenhouse gas emissions; pollution	Climate change as a key pressure on biodiversity loss; habitat fragmentation, ecosystem degradation
Transport	Transport infrastructure such as roads, and greenhouse gas emissions	Habitat fragmentation, ecosystem degradation, climate change
Forestry	Enhanced forestry capacity and increased consumption	Primary forest loss and ecosystem degradation
Infrastructure	Soil sealing, urban sprawl	Habitat fragmentation, ecosystem degradation

Source: Based on (OECD, 2003<sub>[13]</sub>); (Sur, Umali-Deininger and and Dinar, 2002<sub>[25]</sub>); (Bull et al., 2006<sub>[25]</sub>); (ODI, 2015<sub>[24]</sub>).

## Target 19 資金フロー

### GBFファンド

- 地球環境ファシリティの下に設置
- 2023年8月から、運用開始
- 2024年7月末時点の運用状況：
  - a) カナダ、ドイツ、日本、ルクセンブルク、スペイン、イギリスから合計2.25億米ドルの拠出
  - b) 支援：24か国へ計1.1億米ドルの資金援助



©A. Kagoshima/WWF Japan

二次募集(2024.3.4~2024.4.1)においては、提案プロジェクトの約1/3しか採択されないなど、運用面に不満の声も。  
CBD COP16までに三次募集実施予定？



**“Together Possible”**

